



情報飽和・偽情報時代に 子どもたちに必要な力を一

中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会 情報・技術WG(第5回)資料



スマートニュース メディア研究所長
山脇 岳志 1

情報環境をめぐる現状や 懸念点について

生成AIの発展

ますます虚実が
見極めにくい
危機的状況に



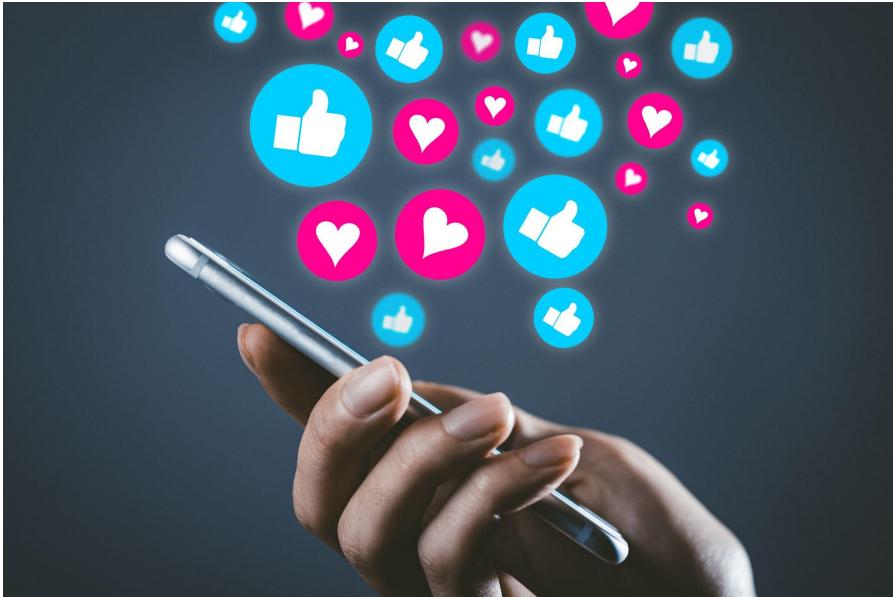
Video generated by Sora 2 (Deevid AI)
筆者がSora2にて作成した映像

個人 VS 巨大企業のテクノロジー

相当な知識と、巨額の費用をかけてつくられたテクノロジーに、個々人で対応をしている状況



SNSを規制する国も



- SNSのアルゴリズムや有害コンテンツが子供のメンタルヘルスに悪影響を与えるとみて、若年層の**SNS利用を法律で制限・禁止**する国も
- オーストラリア(2025年12月～)。フランス、マレーシアも検討中

偽情報が広がる理由

嘘のニュースは、真実のニュースの 6倍早く広がる

Twitter(現X)でツイートやリツートされた投稿について、虚偽のニュースは、真実のニュースよりも70%も多くリツイートされた。

また、真実のニュースが1500人に届くには、虚偽のニュースの6倍時間がかかっていた。(米マサチューセッツ工科大学研究者による2018年の調査)

S. Vosoughi et al. "The spread of true and false news online", Science (2018) より

偽情報が広がる理由

SNSでは
「本当かどうか」より
「刺激的なもの」が
優遇されがち



出典:「Engagement, user satisfaction, and the amplification of divisive content on social media」Smitha Milli et al., PNAS Nexus (2025)
<https://academic.oup.com/pnasnexus/article/4/3/pgaf062/8052060>

**「民主的で持続可能な社会の創り手」として
情報飽和・偽情報時代を生き抜くために必要なスキル**

義務教育時代から不可欠なスキル

- クリティカルシンキング
 - クリシンに基づく「**情報対応スキル**」
(メディアリテラシーの一部)

クリティカルシンキングについて

批判的思考と訳されるが、「批判することではない。「吟味する」こと



京都大学 名誉教授
楠見 孝 氏

- 1) 論理的・合理的な思考
- 2) 自分の推論プロセスを意識的に吟味する **内省的(Reflective)、熟慮的**な思考
- 3) よりよい思考を行うための目標志向的思考

「メディアリテラシー吟味思考を育む」(時事通信社、2022年)より

クリティカルシンキングに基づく行動

- 立ち止まって考える
- 賛否両方の立場からじっくり考え、評価する
- 仮説を立てて、検証する（繰り返す）
- 証拠に基づいて、前提や理由を系統立てて、相手に説明する
- 目的、状況、相手の感情、文化、価値観を考慮して実行する

「メディアリテラシー吟味思考を育む」(時事通信社、2022年)より

情報対応スキル

メディアリテラシーの一部

情報を、多角的に分析して考える

情報の受発信、受け止めに、社会的・文化的背景がある(自分のバイアスもある)ことを理解する

偽情報・白黒はっきりしない情報は「活用しない」ことも含まれる

情報
対応
スキ
ル

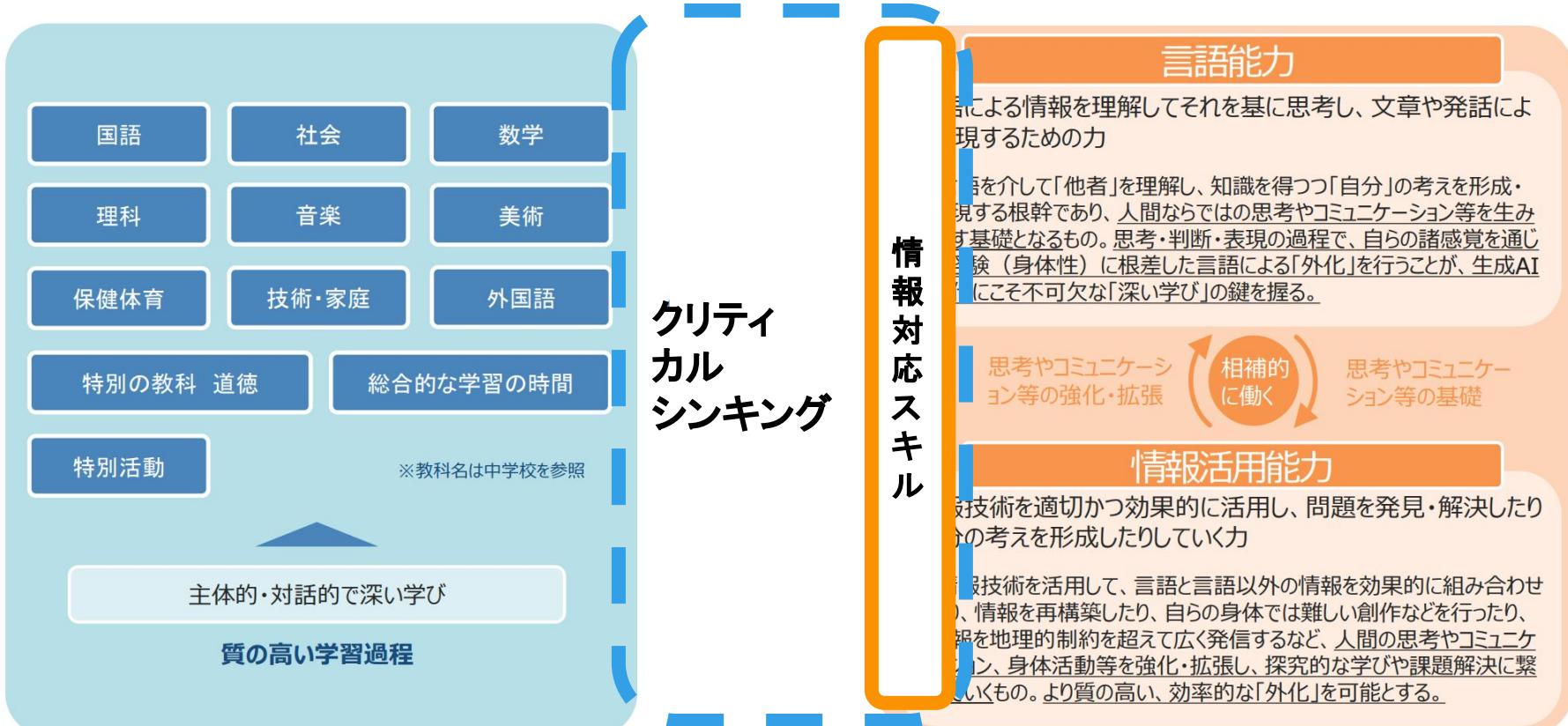
言語能力

相補的

情報活用能力

- 「情報対応スキル」は、両方の能力にまたがるスキル。間を埋める役割も。
- ふだんの生活でも必要となる「生活知学力」の向上につながる

情報対応スキルの位置付け



情報対応スキルについて

https://online225.psych.wisc.edu/wp-content/uploads/225-Master/225-UnitPages/Unit-02/StanfordDigitalLiteracy_Examples-a_2016.pdf

- 花の問題は、10ページ目参照

Stanford History Education Group (SHEG) "Stanford Digital Literacy"
「EVALUATING INFORMATION: THE CORNERSTONE OF CIVIC ONLINE REASONING」(2016年)より

アメリカの高校生の8割が、この情報に適切な評価を できなかった(2016年)

Stanford History Education Group (SHEG) "Stanford Digital Literacy"
「EVALUATING INFORMATION: THE CORNERSTONE OF CIVIC ONLINE REASONING」(2016年)より

[https://online225.psych.wisc.edu/wp-content/uploads/225-Master/225-UnitPages/Unit-02/
StanfordDigitalLiteracy_Examples-a_2016.pdf](https://online225.psych.wisc.edu/wp-content/uploads/225-Master/225-UnitPages/Unit-02/StanfordDigitalLiteracy_Examples-a_2016.pdf)

戸田市との共同調査 で、同じ問題を出題

- 小5向けに選択式とした
- メディアリテラシー効果測定プロジエクトの一環

スマートニュース、埼玉県戸田市と共同でメディアリテラシー教育の効果を測定

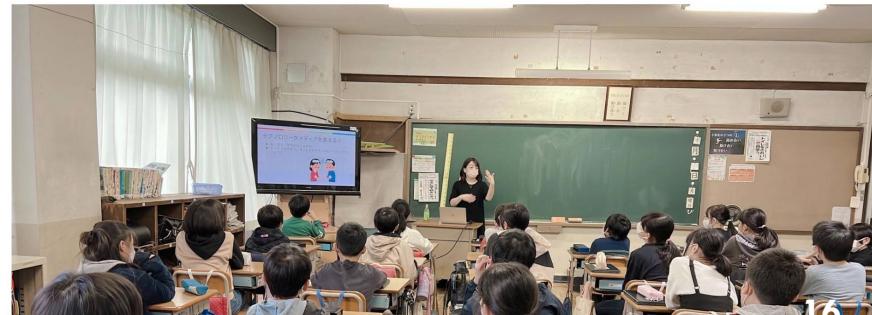
2023年05月24日



～リテラシー教育によって批判的思考力（クリティカルシンキング）が向上～

スマートニュース株式会社（東京都渋谷区、代表取締役：鈴木健）のシンクタンクで、公益活動の一つとしてメディアリテラシー教育に携わる「スマートニュース メディア研究所」は、埼玉県戸田市教育委員会と共に、メディアリテラシー教育を受けた児童にはどんな効果があるのかを実証するプロジェクトを、2022年9月から2023年2月まで実施しました。

その結果、6ヶ月間、継続的にメディアリテラシー教育の授業を受講した児童たちは、そうでない児童に比べて、批判的思考力（クリティカルシンキング）や、メディアの知識など、メディアリテラシーの要素として重要な能力が伸びることが分かりました。さらに、メディアリテラシー能力が伸びやすい児童の特徴として、国語・算数の基礎学力や自己効力感の高さが関係するとみられることが明らかになりました。



情報対応スキルを身につける 具体的実践例

9月	10月	11月	12月	1月	2月
効果測定テスト1					効果測定テスト2
	(メディアリテラシー)授業1	授業2	授業3・4	授業5	授業6・7

- 継続的にメディアリテラシー教育の授業を受講した児童たちは、クリティカルシンキングや、メディアの知識など、**メディアリテラシーの要素として重要な能力** が伸びていた

戸田市での授業作成で、重要視したポイント3つ

- ① 情報の特徴（すべての情報は「再構成されている」こと）を体感し、理解する
- ② クリティカルに考え、他者と対話する時間を持つ（熟慮的・内省な思考、多角的思考）
- ③ メディアの仕組みについて理解する

=メディアに関して、クリティカルシンキング / 情報対応スキルを身につけるためのポイント

授業の内容(2023年、2024年実施)

① 算数

- グラフの構成を考える
- 「%」についての受け取り方を考える

② 理科

- 「伝統の塩作り」のイメージについて、「ものの溶け方」と関係させて

③ 国語

- 「想像力のスイッチを入れよう」の学習後に、ソウカナでニュースを分析

④ 社会

- あるテーマの記事を、全国紙と地方新聞で比較
- 記事10本の中から、トップニュース3本を決めよう—テレビ局編成会議

⑤ 道徳

- 教科書に掲載されている内容と、伝記を考察した書籍の比較で考える

⑥ その他

- フェイクニュースについて
- メディアについて(基礎知識)
- SNSシミュレーターを使って情報受発信を学ぶ

海外の例

クリティカルシンキング/ 情報対応スキル

イギリスの例

- AIや偽情報を排除するのではなく、それらが存在する世界でどう賢く生き残るか、を重視
- 学校教育における新しいカリキュラム(2028年スタート)のポイント:
 - 批判的思考(クリティカルシンキング)の強化
 - 偽情報への武装: 偽情報やAIに惑わされず、情報を主体的に評価・判断できる力(AIリテラシー/ メディアリテラシー)を養う

GOV.UK「New curriculum to give young people the skills for life and work」より
<https://www.gov.uk/government/news/new-curriculum-to-give-young-people-the-skills-for-life-and-work>

イギリスの例

- Bad News: ケンブリッジ大学の研究チームとオランダのメディア組織が共同開発した、「**偽情報の発信者**」を疑似体験するオンラインゲーム
 - 偽情報の手口を「弱めた形で先に体験する」ことで、実際の偽情報に遭遇した際に騙されにくくなる耐性(心理的免疫)を作る”**プレバンкиング**”(事前反証／予防接種)として利用されている

University of Cambridge / DROG "Bad News"
<https://www.getbadnews.com/en>

カナダの例(オンタリオ州)

- 急速に変化するメディア環境に対応するため、デジタルリテラシーを言語(国語)カリキュラムに新設(2023年改訂)
- 下記項目の授業案(ツールキット)を公開
 - ディープフェイクと合成メディア
 - 誤情報と偽情報：意図的または無意識に広まる情報のメカニズム
 - ニュースのための責任あるSNS利用
- クリティカルに検討するための、思考フレームワークも提供

Toronto Metropolitan University, The Dais "Digital Literacy Toolkit"より
<https://dais.ca/courses/digital-literacy-toolkit/>

フィンランドの例

- メディアリテラシーを「民主的な社会に参加するための不可欠な能力」として、「全教科」で教える
- 学齢別能力記述(Competence Descriptions)
 - 1~2年生(低学年)
 - 「事実」と「フィクション」の表現の違いを理解する
 - 自分の作品への権利(著作権)を知り、他者を尊重する
 - 3~6年生(中学年)
 - アルゴリズム:なぜ推薦されるかの仕組みを学び、情報の偏りに気づく
 - 広告と情報の区別:宣伝目的のコンテンツとニュースを見分ける
 - 7~9年生(中学生)
 - AIと合成メディア:生成物の性質やディープフェイク等のリスクを評価できる
 - 批判的思考:情報源の背後の意図を分析し、社会的な議論に建設的に参加する

**スマートニュース メディア研究所
が提供する授業実践例
クリティカルシンキング/
情報対応スキル**

- ① 情報の特徴（すべての情報は「再構成されている」こと）を体感し、理解する
- ② クリティカルシンキング（熟慮的・内省な思考、多角的思考）を育む
- ③ メディアの仕組みについて理解する

- いずれの授業にも、「正解がない」
- プロセスや多様性の理解を重視



小学校～

(クリティカルシンキング)

- ★ 「朝の会」やホームルームで使えるソウカナチェック
- ★ 4コマ映像で「SDGs」を発信！ — 映像制作によるクリティカルラーニング

(情報の特徴理解)

- ★ 「情報の再構成」を体感

(アルゴリズム理解)

- ★ SNSのアルゴリズムを体験しよう

中学校～

(クリティカルシンキング)

- ★ 「教科書」もメディア？ 理想の教科書を考える
- ★ フィルターバブルを体感しよう
- ★ 図書館での出前講座～学校を社会に開かれたものに

(情報の特徴理解)

- ★ 見出しを作って、ネットで発信してみよう
- ★ リツイートしてみよう

(情報リテラシー)

- ★ それ虚偽ニュースかも。さて、どうする？ ~情報リテラシーを養う

(クリティカルシンキング)

- ★ 国語科教科書を批判的に読む — 国際バカロレア教育の手法を使って
- ★ 3つの県の3つの高校の授業をつなぐ

(ニュースリテラシー)

- ★ 報道における情報元の評価 : A NICE source analysis
白雪姫暗殺未遂事件

(情報の特徴理解)

- ★ デザイン思考とダークパターン(2026年2月公開予定)

高校～

スマートニュース メディア研究所で公開している授業実践例

【より詳しく知りたい方へ】

書籍で「メディアリテラシー」について詳しく解説しています。スマートニュース メディア研究所HPでは、授業実践例を無償で提供し、専門家の論考なども掲載しています。



The logo for Smart News MEDIA LITERACY LECTURE. It features a blue circular icon with a white 'S' and a blue 'N'. Below the icon, the words 'Smart News' are written in a small, sans-serif font. Underneath that, 'MEDIA LITERACY' is written in a larger, bold, sans-serif font. At the bottom, 'LECTURE' is written in a smaller, regular sans-serif font.

授業の展開（45分の場合）

時間	教師の活動	児童・生徒・学生の活動
【導入】 10分	アルゴリズムの簡単な説明や、ゲームの流れを紹介する	
【ゲーム】 20分	作業の実際を見ながら生徒に適宜声をかけ、全体ディスカッションで生徒に問いかける	それぞれ投稿文の組み合わせを考える
【まとめ】 10分	アルゴリズムの特徴と課題を解説する 投稿文に入っている「フェイク情報」について補足説明する	

トップ - メディアリテラシー

メディアリテラシー



デジタル・メディアの利用が急速に進み、SNSなどコミュニケーション手段も多様化する中、ネットに溢れる玉石混交の情報をどう判断し、行動するか、その重要性が一層高っています。メディアアリテラシープロジェクトでは、情報の多様性をクリティカルシンキングで体感しながら、さらにその情報は成る程ものすごいことを社会に認識してもらい、その上で答えるが簡単に出ない課題について、生徒と一緒に考えていくプログラム作成に取り組んでいます。

専門家インタビュー・論考

メディアリテラシー教育の歴史、実践、今後の課題などについて、国内外の専門家にインタビューしたり、寄稿していただきます。



參考資料

(参考資料1 生成AIの発展と弊害)

増えるAI スロップ

* AIを使って大量生産された、中身のない低品質なコンテンツ

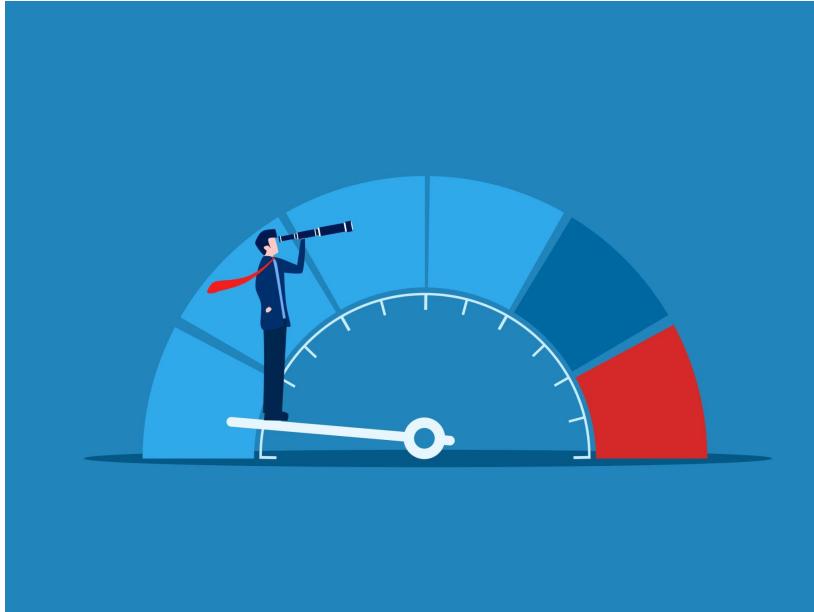
- 新規アカウントで YouTubeショートを 500本視聴した結果、21%がAIスロップだった

(Kapwingの調査より

: <https://www.kapwing.com/blog/ai-slop-report-the-global-rise-of-low-quality-ai-videos/>)



Image generated by Gemini
筆者がGeminiにて作成した映像



偽誤情報は
選挙結果にも影響しかね
ない

接戦の場合、わずかな有
権者が意見を変えること
で、選挙結果が変わっ
てしまう

偽情報が広がる理由一感情的分極化

「敵対党派への敵意を高める感情的分極化 が危険なのは、それが政治家に説明責任を軽視させ、フェイクニュースの温床となるからである」(佐藤卓己・上智大学教授)

東奥日報 2024年11月2日付朝刊より

- アメリカでは、対立政党を嫌う人の割合が激増。共和党支持者で民主党を「非常に否定的」に見る人の割合は、94年21%→2022年62%、民主党支持者が共和党を「非常に否定的」にみる人の割合は、94年17%→2022年54% *ピュー・リサーチセンター調査より

偽情報が広がる理由

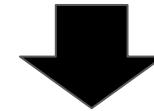
デジタル技術により、誰でも従来のジャーナリズムと同等のデザインでコンテンツを作成し、広く共有が可能に

→

ソーシャルメディア(SNS)のプラットフォームは、真実かどうかにかかわらず「エンゲージメント(反応)」の高いコンテンツを優遇する

→

アルゴリズムはユーザーと同じ考え方を持つ集団の中に閉じ込め、消費するコンテンツの真偽を無視させる



「嘘つきが得をする *」現象が生まれている

* Liar's dividend

「マーカス・ブラウクリ(ワシントンポスト元編集主幹)=選択2026年1月号」

衰退する民主主義①

- **民主主義指数の世界平均**

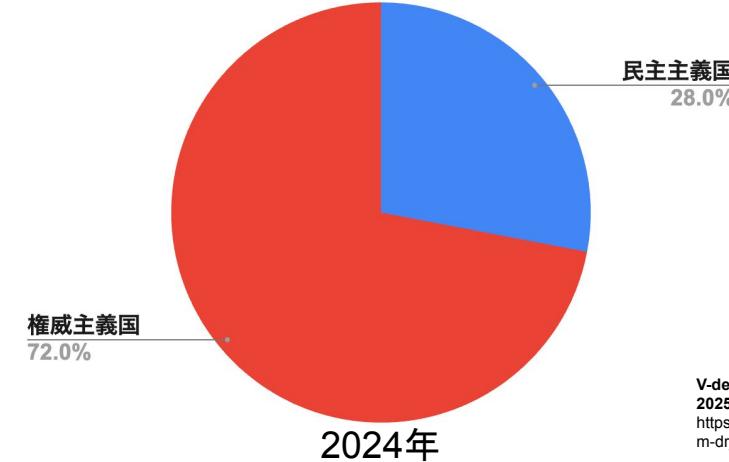
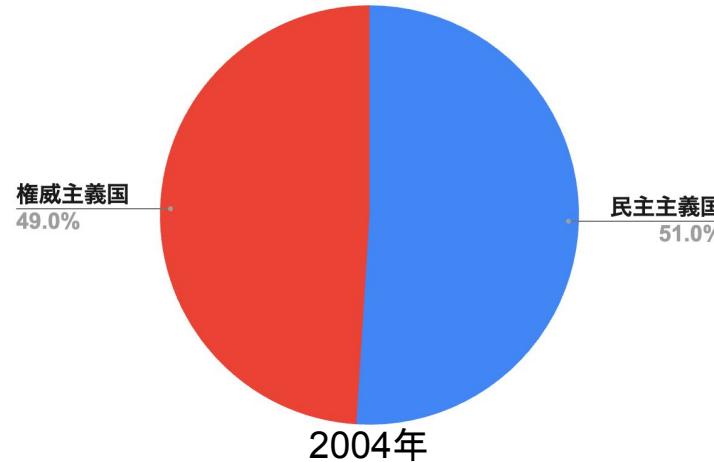
2006年の調査開始時は5.52だったが近年急速に低下、
2024年には5.17に(過去最低)

エコノミストインテリジェントユニットEIU)の調査より
Economist Intelligence Unit (EIU) "Democracy Index 2024"
<https://www.eiu.com/n/global-themes/democracy-index/>

(参考資料3-2 民主主義の現在地について)

衰退する民主主義②

民主主義国／権威主義国に暮らす世界人口の割合(2004年・2024年)



V-dem Institute "Democracy Report 2025"
https://www.v-dem.net/documents/60/V-dem_dr_2025_lowres.pdf を元に作成

- 自由な表現(freedom of expression)に関わる指標が最も悪化している
(メディアの自由、ジャーナリストへの嫌がらせ、討論の自由など)
- 強権化が進む国の約半分において、政府がメディアを検閲し、偽情報を用いて世論操作を行うケースが常態化している

情報モラル教育とメディアリテラシー教育

● 情報モラル教育(保護主義)

「知識を有しているとされる大人が、知識を持たない子どもに対して、トラブルへの対処の仕方を教え、子どもを社会から守ろうとする」(森本洋介著「メディア・リテラシー教育の理論と実践」ミネルヴァ書房、2025年)

- ❖ SNSの使い方、偽情報の見分け方、デジタルマナーなど。「正解がある」タイプの授業が多い

● メディアリテラシー教育(子どものエンパワーメント)

「どのような未知の状況が起こったとしても、(子どもが)自ら情報を集め、情報を評価し、主体的に判断して自己決定できるようにする」(森本洋介著、同上)

- ❖ クリティカルシンキングに基づき、物事を多角的に分析。民主主義との強い連関あり。「正解を求める」授業ではなく、プロセスや多様性の理解を重視
- ➡ 次期学習指導要領改訂にあたって重視されている「自らの人生を舵取りすることができる力」を身につけることにつながる

メディアリテラシー教育についての論考紹介



いま、なぜメディアリテラシー教育が必要なのか(上・下)
～激変するメディア環境に対応、「定義論争」や会社の枠を超えて
～クリティカルシンキングの養成が、健全な民主主義社会につながる

メディアリテラシーの現在地、育むためのポイントや、研究所のメディアリテラシー教育についての取り組みなどを紹介（筆者：山脇）

- <https://smartnews-smri.com/literacy/literacy-2573/> （上）
- <https://smartnews-smri.com/literacy/literacy-2575/> （下）

(参考資料4-3 メディアリテラシー教育について)

情報リテラシー教育についての論考紹介



ウソとホントは見分けられるのか?
学校現場で「情報リテラシー」の基礎を教える

「情報の真偽を見極めようとする」のは、情報リテラシーとされています。情報リテラシーとはそもそも何か、それを学校現場で教えるには?などをまとめています(筆者:山脇)

- <https://smartnews-smri.com/literacy/literacy-2554/>

(参考資料5-1 スマートニュース メディア研究所について)

スマートニュース メディア研究所について

ニュースアプリ「SmartNews」を運営する、スマートニュース株式会社の研究所。

スマートニュースのコア・バリューの一つ「For the Common Good」に基づき、2018年に設立されました。「ニュースやメディアが社会に役立つにはどうすればよいか」をメインテーマに下記の研究、実践を行っています

- 世論調査などのプロジェクトを通じて、激動期を迎えるメディアと社会のかかわりを調査・分析
- 学校現場で役立つメディアリテラシー教材を開発し、子供たちがメディアの特性を理解して主体的に考える力を養うことができるよう支援

これらの活動を通して、メディアと社会がより良い関係を結んでいくことに貢献したいと考えています

